# 『剣道と私』

徳島県
鳴門市光武館
小学６年生　　福　山　花　純

私が剣道を始めたのは小学校四年生の冬でした。そのころの私は、学校で同級生たちに、いつも「早よ死ね。」「三階から飛び降りて今すぐ死ね。」と言われていました。本当に死のうと思った事もあり、学校へ行くのがつらく苦しい毎日でいつも泣いていました。その事を両親に話すと父が「剣道でも始めてみるか。」と言って、私を光武館道場へ連れて行ってくれました。道場に入るとすぐ「こんばんは」とみんなが大きな声で、見知らぬ私たちにあいさつをしてくれたのには、びっくりしました。

練習が始まって、大きい子も小さい子も一生けんめい大きな声で練習している姿を見て、「こんな気の弱い私にできるのか。」と不安になりましたが、いじめに負けない強い子になりたい、もう毎日泣くのはイヤだ、と思っていたので、剣道を始めようと決心しました。

入門すると、館長先生のお母さんで、七十九歳、みんなから「お母さん先生」と呼ばれている先生から基本を教わりました。くる日もくる日も、礼のしかた、すり足ばかりの練習で、私も竹刀を持ってみんなのように剣道ができるようになるのだろうか、と不安でいっぱいでした。

そんな私の様子をみて、ある日お母さん先生から「花純ちゃん。学校でいじめられていない？あなたの練習態度を見てそう感じたんだけど。」と言われびっくりしました。私は正直にいじめられている事を話しました。先生は私に「いつもおどおどしている様子をみて心配していたのよ。いじめられた時、泣いていたら面白がって、よけいにいじめられるよ。強い気持ちで、何を言われても平気な顔をして、相手にしないようにしたらいいよ。」と言ってくださいました。それからの私は、いじめに負けない強い気持ちを持つためにも、早く面を着けてみんなと同じ練習がしたい、強くなりたい、と思うようになり、その日習ったことを忘れないように、家で一生けんめい復習しました。館長先生から「福山、よくがんばったな、次から面をつけてこい。」と言われた時は、とてもうれしかったです。

面をつけて、きびしい練習をしているうちに、私自身、気持ちがだんだんと強くなってきました。学校では、お母さん先生から教えられたとおり、同級生の子から「死ね」と言われても、泣くこともなく、「死なないよ。」と心の中で言い返し、何を言われてもくっしない姿勢をつらぬき通しました。

すると、毎日続いていたいじめがだんだんなくなり、あれだけ泣いて行きたくなかった学校も、楽しく通学できるようになりました。

ある日、私は練習中に過呼吸になり、救急車で病院に運ばれたことがありました。その時は、苦しくて死ぬかと思い、練習に行くのも怖くなって、練習を見学するようになりました。その時私に、道場のみんなが、「大丈夫？」「がんばろう。」と励まし、勇気づけてくれました。今もがんばって剣道を続けられているのは仲間のおかげです。

六年生になり、私は団体戦の選手として、試合にでられるようになりました。しかし、試合では負けてばかりで、チームに迷惑をかけていましたが、だれ一人、私を責める人はいませんでした。ある時の試合で私が勝ち、チームが勝利した事がありました。その時みんなから「よくやった。ありがとう。」と感謝され、チームにこうけんできたことが本当にうれしかったです。

剣道をとおして、私自身に自信を持つことができました。また、かけがえのない仲間もできました。

「剣道、それは私をいじめから救ってくれた宝物です。」これからも剣道を続け、もっともっと強い自分になるとともに、今度は私が友だちの力になれる人になりたいと思います。